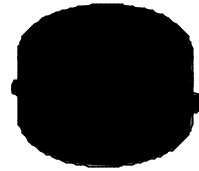
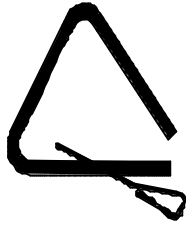


音楽科における評価のポイント



理論編

- 1 音楽科の目標
- 2 音楽科で育成する資質・能力
- 3 評価の観点

実践編

- 1 授業の改善に向けて
- 2 指導計画・評価計画の作成
- 3 実践を通して明らかになったこと

資料編

- 1 指導計画・評価計画・指導事例
- 2 ワークシート例
- 3 その他

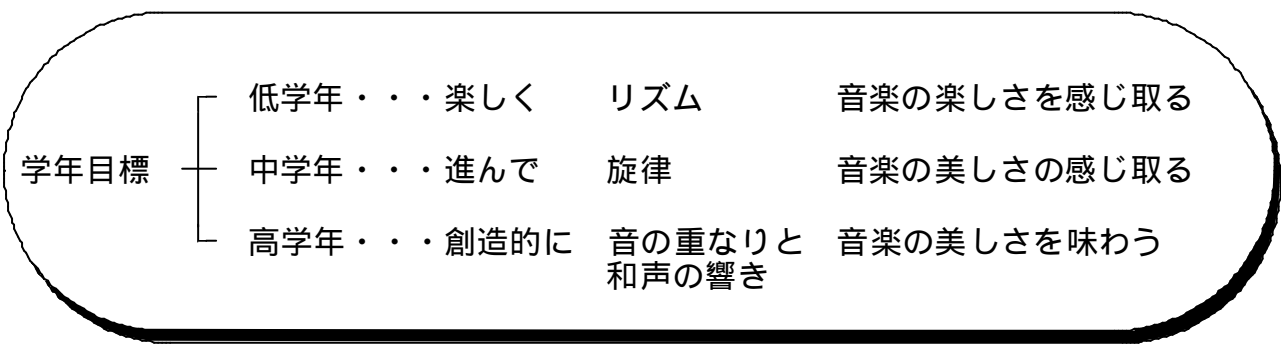
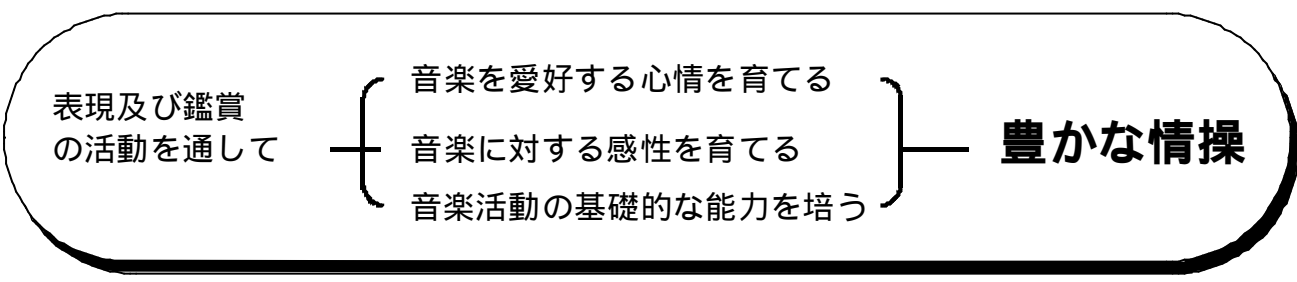
理論編

1 音楽科の目標

学習指導要領のねらいは、そこに示す基礎・基本を児童に確実に身に付け、自ら学び、自ら考える力「生きる力」を育むことをねらいとしています。

音楽科としては児童が主体的に音楽にかかわる学習活動をより推進していく必要があります。

音楽科の目標

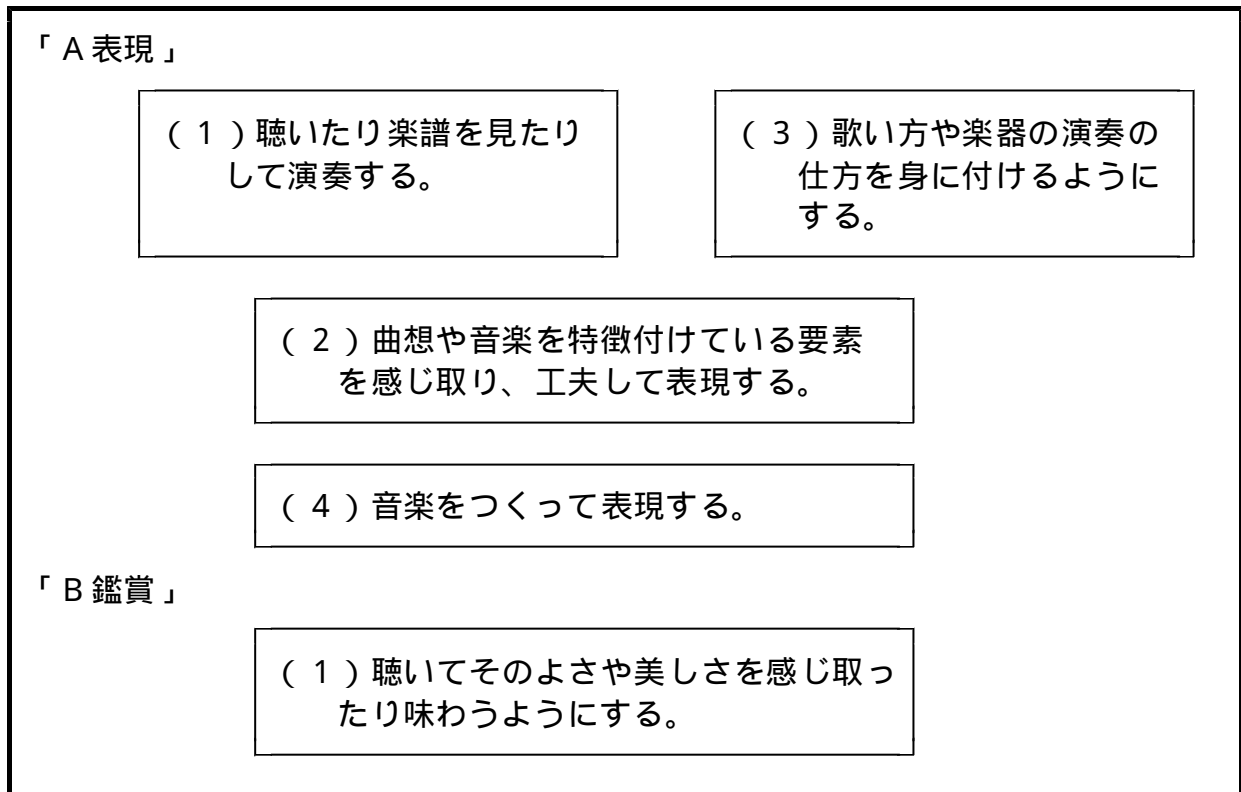


- ・・・ 音楽活動に対する興味・関心、意欲を高め、音楽を生活に生かそうとする態度、習慣を育てる内容
- ・・・ 表現の能力を育てる内容
- ・・・ 鑑賞の能力を育てる内容

2 音楽科で育成する資質・能力

小学校音楽科で重視する資質・能力は、学習指導要領の各学年の目標と内容、内容の取扱いに示されています。

「A表現」(1)～(4)、「B鑑賞」(1)を整理すると、次のようにまとめられます。



「A表現」の(1)と(3)の内容は、音楽活動として表面に表れるもので、比較的とらえやすいですが、(2)(4)については音楽が内包している音楽的感覚の能力であるのでなかなかとらえにくく、その育成が難しいです。しかしどれもが小学校で身に付けなければならない基本的な能力だと言えます。

そのために

(1) 児童の意欲を引き出し高める工夫をすることが大切です。

児童の音楽学習に取り組もうとする姿勢を大切に、一人一人の意欲の違いを適切に把握し、どの児童も楽しく音楽学習に取り組めるよう積極的に働きかけることが大切です。

(2) 指導計画をしっかりと立て、「教えるべきことを教師がしっかり教える場面」と「児童が主体的に表現する方法などを追究する場面」をしっかりと考えておくことが大切です。

学習指導要領に示されている目標と内容を示す「基礎・基本」は、教師の指導と児童の学習との、バランスのとれた授業展開によって確実に児童に身に付いていくものであり、単に知識として学ぶのではなく、それを活用する力も併せて身に付けていく必要があります。

3 評価の観点

(1) 音楽科における評価の観点と趣旨

教育課程審議会答申(H12,12)では、「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方において、観点別学習状況の評価を基本とする」評価方法を発展させ、目標に準拠した評価をいっそう重視することになりました。音楽科の場合、下の4つの観点で評価していきます。

音楽科の評価の観点及び趣旨

音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	表現の技能	鑑賞の能力
音楽に親しみ、音楽を進んで表現し、鑑賞しようとする。	音楽のよさや美しさを感じ取り、それらを音楽活動の中で創意工夫し、生かしている。	音楽を表現するための基礎的な技能を身に付けている。	音楽を楽しく聴取、鑑賞し、そのよさや美しさを味わう。

表現の技能は比較的音楽の活動として見える部分であるので評価しやすいですが、音楽的な感受や表現の工夫については見えにくく、評価しにくい観点です。しかし児童が授業の中で自分で考えたり、工夫したり、自分なりの表現をするという主体的な活動は今一番求められている内容です。

したがって、授業の中で児童が主体的に活動できる場面をたくさん設定していく授業を進めること、すなわち授業改善が必要になってきます。

(2) 指導と評価の一体化をめざして

常に児童の学習状況を適切に把握し、授業の中で児童の音楽学習を高めたり、あるいは深めたり、次の音楽の時間に生かされるような評価が大切です。

まず授業の計画を立て、授業を行い、その結果としての成果を評価するというものの他に、授業の過程で児童の実態や学習状況を把握し、児童の学習意欲を喚起したり、つまづきを正していくという学習課程における評価もあります。授業における児童への指導の場面においては学習過程における評価が重視されます。

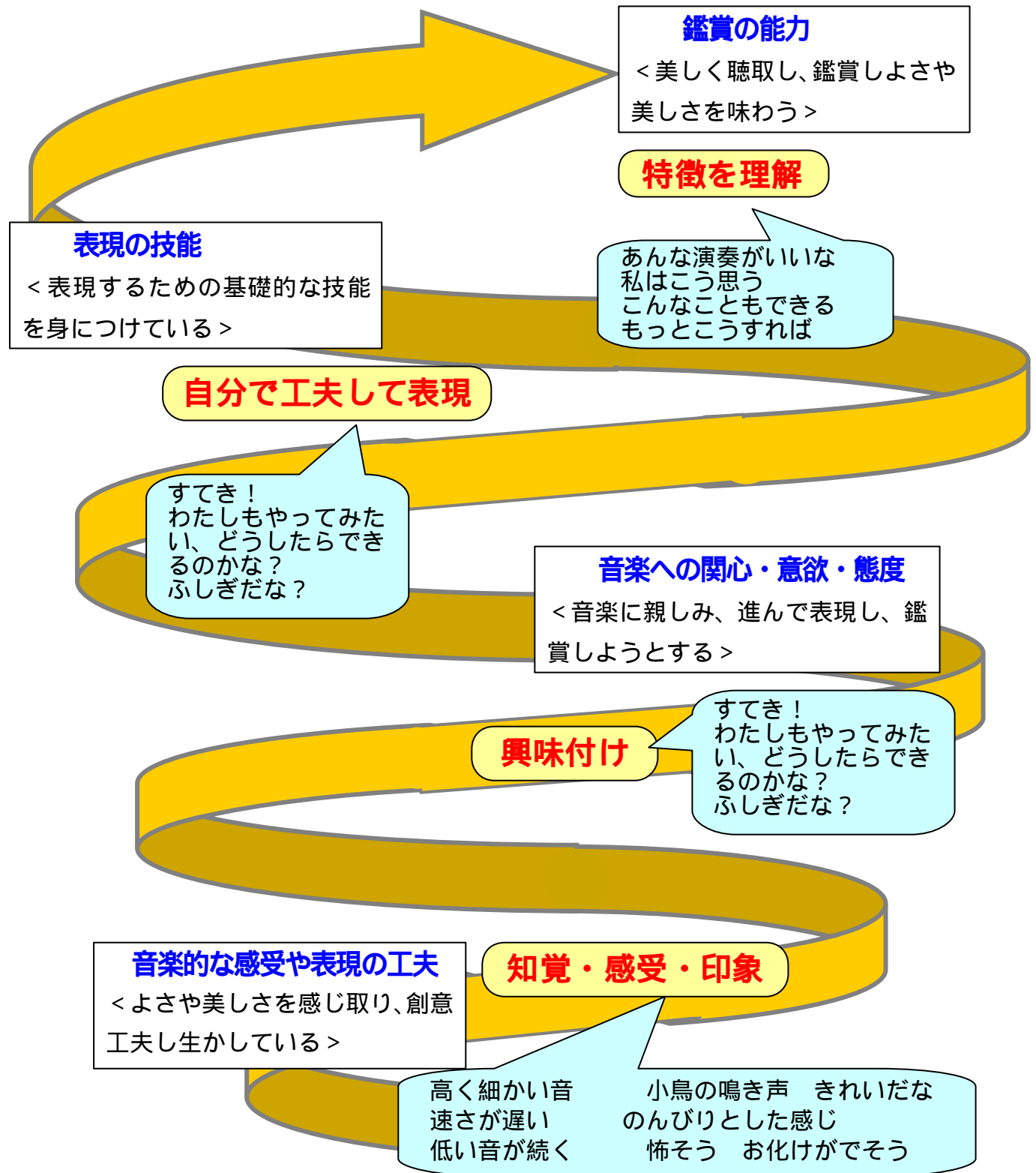
授業中の指導に生かす。

評価の後の指導に生かす。

指導方法や評価方法の改善を心がける。

(適切な場面、可能な範囲、可能な項目数で評価規準を設定する)

} 指導と評価の一体化



人は音楽を聴いて何かを感じます。たとえば音色、リズム、メロディー、音の重なり、速度、強弱など（知覚）・・・そこから気分、雰囲気、曲想、豊かさ、美しさなどを感じ取ります（感受）。そのことが次の音楽への関心・意欲・態度へとつながり、「おもしろそうだな」「よしやってみよう」「私もあんなに上手に演奏がしてみたい」という気持ちを起こさせ（音楽に関する関心、意欲、態度）、自分なりに工夫をして表現しようとしていきます（表現の技能）。それをお互い聴き合う（鑑賞の能力）ことで更に新しい感受が生まれるというふうに、4つの観点のスパイラルな関係のスタートとなるのが、音楽的な感受と考えられます。

実践編

1 授業の改善に向けて

教え込み授業から、児童の中から引き出し、育てていく授業へ

これまでの授業は「～することができる。」や「～に意欲的に取り組んでいる。」など、はっきりと音楽活動として表面に表れる部分にどうしても目がいきがちとなり、また、指導する側の思いの方が全面に出て、「ここはこういうふうに演奏して・・・」とか「もっと、明るい声で・・・」というような指導をしてしまうことが多かったのではないのでしょうか。

しかしこれからは、はっきりと見えにくい活動ではありますが、その活動に取り組んでいる過程での児童の様子（どのように感じ、どのように演奏したいと考えるのか、また、どのように工夫したのか）に目を向け、ものの考え方や、感じ方を育てる授業を進めていくことが大切になってきます。この観点は、表面に表れる音楽活動を支える大切な力と言えます。

児童が主体的に音楽にかかわる授業とは

普段の授業から「音楽の表現の仕方はいろいろであり、自分の思いを表現する方法を見つけることが大切である。」という立場に立って、児童一人一人の感じ方や発想を大事にしていくことがこれからの教師の課題と言えます。

特に音楽のように必ずしも一つの表現方法が正しいというわけではない教科においては、個々の児童が自分の考え方を音楽表現できるよう、柔軟に、かつ楽しく指導していくことが求められています。

たとえば、「みんなでコンサート」(「新しい音楽 2年」<東京書籍>)の教材の学習では、歌詞の中に出てきている動物「こりす」「こぞう」以外に自分が表したい動物とそれに合う楽器を、学校にあるいろいろな楽器の中から選ばせます。また、手づくり楽器に挑戦させたりすることで、児童一人一人が徐々に思い思いの表現方法を見つけるようになります。このように児童の主体的で創造的な取組を促し、それを丁寧にまた適切に評価していくことで、児童は自分の表現について自信を持つようになります。

このように、児童が「また、この次も今日のような音楽をやりたい。」と感じるような授業を行うことが大切です。

2 指導計画・評価計画の作成

題材名「音の たんけん」(2年生)を例にとって

(1) 題材のねらいを理解する

この題材「音の たんけん」は、「音に気づき、音づくりを試みる活動」をねらいとしています。学習指導要領の[A 表現][B 鑑賞]のAの(4)「音楽をつくって表現できるようにする。」に当てはまり、内容は次の通り書かれています。

【学習指導要領の内容】

A 表現	4) 音楽をつくって表現できるようにする。 ア リズム遊びやふし遊びなどを楽しみ、簡単なリズムをつくって表現すること。 ① 即興的に音を探して表現し、音遊びを楽しむこと。
---------	---

この題材は①の指導内容と合致すると考えられます。

(2) 題材の目標・評価規準を設定する

国立教育政策研究所から出されている、「各教科及び特別活動における評価規準の作成、評価方法の工夫改善」の資料を参考に目標を設定し、評価規準を決めます。

内容のまとめりごとの評価規準

【「A 表現・創作」の評価規準】

音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	表現の技能
自ら音楽をつくって表現する活動に興味・関心を持ち、進んで音楽づくりを楽しむとともに、その経験を生活に生かそうとする。	様々なリズム、いろいろな声や音の響きのおもしろさを感じ取るとともに、音楽表現のイメージを持ち、それらを生かした音楽づくりを工夫している。	簡単なりズムをつくって表現するとともに、即興的に音を探して表現し、音遊びを楽しむなど、工夫して音楽をつくっている。

内容のまとめりごとの評価規準の具体例

【「A 表現・創作」の評価規準の具体例】(1, 2年生)

音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	表現の技能
<ul style="list-style-type: none"> 様々なリズムのおもしろさ、身の回りのいろいろな声や音の響きに興味・関心をもっている。 夢中になって音楽づくりを楽しんでいる。 自分の身体や身の回りのいろいろなものを楽器として音楽づくりを楽しんでいる。 リズム遊びやふし遊び、簡単なリズムづくりを楽しんでいる。 様々な音遊びや、イメージにあった音を探して表現する活動に進んで取り組んでいる。 自分でつくった音や音楽を進んで発表しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を聴くことや音楽遊びを通して、様々なリズムの違いやリズム表現のおもしろさに気付いている。 音楽の快いリズムに身体全体で反応している。 様々な音遊びを通して、音そのもののおもしろさに気付いている。 互いに工夫してつくった音や音楽を聴き合い、そのよさや楽しさを感じ取っている。 身の回りのいろいろな声や音の響きに注目し、自分の表現したいことについての思いやイメージをもっている。 いろいろな音や声の響きが 	<ul style="list-style-type: none"> 拍の流れによって、リズム遊びやふし遊びなどを行っている。 拍の流れによって、簡単なリズムをつくって表現している。 様々な音の素材を使って、音遊びをしている。 音の響きのイメージを膨らませて簡単なお話をついたり、自分自身の音を工夫してつくったりしている。 音や声の出し方を工夫して、自分のイメージに合った音づくりをしている。

<ul style="list-style-type: none"> る。 ・音楽づくりで得た経験を歌唱や器楽鑑賞の活動に生かそうとしている。 ・季節や地域の行事にかかわる活動と関連した音楽表現を工夫しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 醸し出している様々な気持ちや情景などを想像している。 ・様々なリズムや音そのもののおもしろさを生かした表現を工夫している。 ・見つけた音の響きのイメージを膨ませて、音づくりの工夫に生かしている。
--	---

【「B鑑賞」の評価規準】

音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	鑑賞の能力
<p>様々な音楽を聴くことに興味・関心をもち、進んで鑑賞活動を楽しむとともに、その経験を生活に生かそうとする。</p>	<p>いろいろな種類の音楽やいろいろな演奏形態による音楽を聴いて、日常生活に関連して具体的な情景を想像したり、イメージを膨らませたりするなど、そのよさや楽しさを感じ取るとともに、音楽表現のよさに気付き、それらを生かした鑑賞の工夫をしている。</p>	<p>リズムや旋律及び速さ、楽器の音色や歌声等に気を付けて聴くとともに、楽曲の気分を感じ取って聴く。</p>

【「B鑑賞」の評価規準の具体例】(1, 2年生)

音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> ・行進曲や踊りの音楽などいろいろな種類の音楽や、いろいろな演奏形態による音楽を聴こうとしている。 ・楽器の音色や楽器の演奏の仕方に興味・関心をもって聴こうとしている。 ・音楽を聴いて、そのよさや楽しさを感じ取ろうとしている。 ・主な旋律を口ずさんだり、体を動かしたりしながら、楽曲全体の気分を感じ取ろうとしている。 ・楽曲を特徴付けているリズム、旋律及び速さを聴き取ろうとしている。 ・自らの感じ方を生かしながら、様々な音楽を進んで聴こうとしている。 ・教師や友達の演奏をよく聴こうとしている。 ・生活の中にある様々な音楽に関心をもち、愛好曲を増やそうするとともに、生活の中でそれらの音楽を聴くことに親しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行進曲、踊りの音楽などいろいろな種類の音楽を聴いて、情景を想像したりイメージを膨らませたりしながら、音楽を聴く楽しさを感じ取っている。 ・いろいろな演奏形態による音楽のよさや楽しさを感じ取っている。 ・友達の表現を互いに聴いて、そのよさや楽しさを感じ取っている。 ・フレーズのとまりを意識してリズムを感じ取っている。 ・個々の楽器の音色の特徴を感じ取っている。 ・主な旋律の特徴や、楽曲の構成を感じ取っている。 ・音楽に合わせて体を動かしながら、音楽の流れを感じ取っている。 ・主な旋律を口ずさみながら音楽を聴き、楽曲の気分や楽しさを感じ取っている。 ・演奏している場面を見たり、音楽に合わせて演奏のまねをしたりしながら、演奏のおもしろさを感じ取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽表現のよさや楽しさを感じ取りながら、様々な楽曲を聴いたり、範唱や範奏、友達の表現を聴いたりする。 ・楽曲を特徴付けているリズム、旋律及び速さの特徴に気付いて聴く。 ・フレーズのとまりを意識してリズムを感じ取って聴く。 ・主な旋律の表す描写的な表現や、その旋律が楽曲の中で繰り返し現れるおもしろさなどに気付いて聴く。 ・いろいろな楽器そのものに興味をもったり、音楽を聴く中で、自然に聞こえてくる楽器の音色に気を付けてたりして聴く。 ・様々な音楽のよさや楽しさを感じ取って聴く。 ・様々な音楽を聴き比べる活動を通して楽曲の気分の違いを感じ取って聴く。 ・主な旋律を口ずさんだり、体を動かしたり、身近な楽器で演奏をしたりしながら、楽曲全体の気分や音楽の流れを感じ取って聴く。 ・視聴覚教材などを通して実際に演奏している場面に接して、楽器の演奏をまねをして聴いたり、演奏の仕方に魅力を感じ取りながら聴いたりする。

それぞれの観点から具体例を参考にして、目標の設定を行います。
表現領域では「音楽への関心・意欲・態度」「音楽的な感受や表現の工夫」「表現の技能」の3観点でみます。観点「鑑賞の能力」は鑑賞領域にのみ評価する観点ととらえます。

本題材では ○ で囲った例を参考にし、児童の実態を考慮し題材目標を作成しました。

(3) 単位時間ごとの指導内容・評価規準を考える

題材の指導目標、評価規準を設定し、児童の実態等を考慮して単位時間ごとに具体化した指導内容と評価規準を考えます。

ア 指導内容を考える上での留意事項

(ア) 目標達成のために指導内容の明確化を図る

学習指導要領の表現領域の(2)「曲想や音楽を特徴付けている要素を感じ取る」ことや(4)「音楽をつくって表現する」内容、鑑賞領域の「感じ取る部分」の内容を大事にした中身でねらいを設定するとはっきりした指導内容になりやすいです。

例

音楽を特徴付けている要素

リズム
旋律
音色
・強弱
・速度
・和音
・和声

音楽をつくって表現する内容

リズム遊び・ふし遊び
リズムづくり
・音の組み合わせ
・リズム、旋律づくり
・曲の構成の工夫

感じ取る部分

楽曲の気分
リズム、旋律、速さ
楽器の音色
・曲想の変化
・旋律の反復や変化
・副次的な旋律
・音楽を特徴付けている要素
・楽曲全体の構成
・曲想
・音や声の組み合わせ
・音や声の重なり

< 学習指導要領の表現領域、鑑賞領域より指導内容になりうるものを抜粋 が1、2年生で指導する内容 >

(イ) 指導と評価を一体のものとして考える

設定された評価規準の中身は、指導により付けたい力でもあると考えられます。したがって、何を評価するのかという観点からねらいを考えると一体のものとしてとらえられ、考えやすいです。

イ 評価規準を考える上での留意事項

(ア) 学習活動における具体の評価規準は指導内容と整合性をもたせることが大切です。また、評価をする場合、何を（評価項目）、どのようにして（評価方法）、いつ（評価場面）を明確にしておきます。

(イ) 1時間毎の具体の評価規準の結果を集約し、総括に生かせるようにする必要があります。したがって題材全体を見渡した時、題材ごとの目標（4観点）がきちんと入っていることが大切です。

(ウ) B、A、Cと評価する判断の手がかりが必要です。特にCと判断する場合には、その児童がBになるための具体的な指導方法を考えておく必要があります。

まず、授業は「おおむね満足できると判断されるもの」 Bを目指すものです。Aの「十分に満足できると判断されるもの」の児童についてはBに含まれると考えられます。したがって、まず評価するのはBが「努力を要すると判断されるもの」 Cかという判断が必要です。AについてはどういうところでAと判断するかを明らかにする必要があります。この場合キーワード的にいくつか示しておくことで判断しやすく児童のよさや、可能性を多方面から引き出せます。

(エ) 学習活動における具体の評価規準については、児童の実態に合わせて各指導者が創意工夫し設定します。1単位時間で評価できる項目は1～2つぐらいが適当です。ただ、活動内容によってはいくつかの評価が関連して評価できる場合もあります。

(4) 本時の展開を考える。

本時の目標（指導の中身）と何を評価するのかをはっきりさせます。

指導内容に関しては目標を達成するためにどの部分に時間をかけてじっくり取り組ませるのかを明らかにしておくことが大切です。

その場合特に教師の働きかけは、児童が生き生きと活動するために重要なものとなります。個に応じた様々な言葉かけや行動を多く考えておくことで大切です。自分がどのような働きかけをすれば、児童が生き生きと活動するかということを、整理しておくことが大切です。教師が自分から絶えず新しい働きかけを模索することも大切です。

3 実践を通して明らかになったこと

成果

- (1) 評価の視点による指導内容の明確化
指導計画に評価を書き入れ、指導の初めにきちんと頭に入れておくことで、指導する内容をはっきりと意識することが増えてきました。
- (2) 他教科への評価意識の向上
全教科すべての単元で評価活動を実践することはなかなか難しいですが、音楽科で実践した評価活動の意義を他の教科に生かそうという意識が生まれてきました。
- (3) 肯定的評価の推進
児童の主体的な学習を大切にする授業は、準備も含めて教師側も非常にエネルギーがいることがわかりました。しかし児童のよい部分を評価する機会が増えたことにより、児童もほめてもらえることで意欲的にがんばる姿が多くなりました。
- (4) 個に応じた指導の重要性の再確認
この題材での音のイメージに合わせた表現をうまく表す方法は児童一人一人違います。(身体表現の得意な子、言葉による表現が得意な子、おとなしいが文章による表現が得意な子・・・など様々でした。)
したがって、いろいろな表現活動の場を多く設定し、個に応じた指導をすることが大切であることが改めてわかりました。
- (5) 体験的な学習の場による児童の変容
低学年の児童はまだ楽器の正しい扱いも知らないなので、まずどんな音が出るのかいろいろなたたき方を試して鳴らしてみたいという行動に出ます。(教師側は楽器が壊れないか気になりますが・・・)しかし、授業で実際に自分で音を出すという体験を通して、だんだん「音」に対する意識が生まれてきて、小さい音に対するこだわりを見せた子、同じ楽器でもたたき方によって音色が違うことに着目した子などが出てきました。また、体験を通して楽器の扱い方も変わってきて、丁寧に扱うことの大切さを自分で感じ取る児童が増えてきました。
- (6) 継続的な取組による児童の意識変化
この題材は自分の感じた「音」をつくっていくという内容であり、皆がすぐに満足できるというものではなく、個人差があることが感じられました。しかし継続して取り組むことで、それぞれが自分の「音」に対するこだわりとともに、友達の音に対しても集中して聴こうという態度が生まれてきました。

課題

- (1) 見えにくい観点の評価の難しさ
音楽的な感受と表現の工夫の評価については、音楽活動としては表面に表れにくく、一人一人しっかりとまたじっくりとみていかないと難しく、工夫により評価できる活動の場の設定を意識して作ることが大切だと感じました。

音楽科学習指導案

小学校
教諭

- 1 対象 第2学年 男子 名 女子 名 合計 名
 2 日時 平成 年 月 日 () 第 校時
 3 場所 音楽室
 4 題材 「音の たんけん」
 5 題材設定の理由

本題材の目標を実現するために、**どういう教材を使ってどのような筋道で指導していくのか、具体的に書き表すことが大切です。**

6 児童観

意欲・態度の変容の様子 学習する内容についての前後の活動の様子 学習する内容の現在の実態等・・・児童が音楽が好きだとか、どのような楽曲を好むかということではなく、本題材に照らしてその実態を把握して記述することが大切です。

子どもの実態を考慮し、この題材で身に付けたい力を明らかにする。指導と評価を一体のものとして考えます。

7 題材の目標

- (1) 様々な音を聴き、イメージに合った音を探して表現する活動に進んで取り組んでいる。
 (音楽への関心・意欲・態度)
- (2) 身の回りのいろいろな音の響きに注目し、自分の表現したい動物についての思いやイメージをもつ。
 互いに工夫してつくった音や音楽を聴き合い、そのよさや楽しさを感じ取る。
 (音楽的な感受や表現の工夫)
- (3) 音の出し方を工夫して、自分のイメージに合った音づくりをする。
 (表現の技能)
- (4) 鑑賞曲の特徴ある楽器の音を聴き取っている。
 (鑑賞の能力)

評価項目、評価方法、評価場面をはっきりさせます。

8 題材指導計画 (全9時間)

時間	指導過程と指導内容	学習活動	学習活動における具体的評価規準等		
			(観点) 評価規準 < 評価の方法 >	十分に満足できると判断される状況 キーワード	努力を要する状況への手立て
1	< 課題把握 > うたにあう音を入れてうたおう ・曲全体の流れの把握と活動の理解 「みんなでコンサート」	・模唱を聴き、曲全体の流れがわかり、活動の見通しをもつ。	(関) 模唱を聴き、同じように歌いたいという願いを持ち、楽しく歌唱表現しようとしている。 < 活動の様子 >	自分なりの工夫豊かな表現 積極的な態度	・一緒に歌ったりして励みます。

指導内容は、ねらう内容を明記します。

Aについてはキーワード的に示すとわかりやすいです。

Bになるための具体的な指導方法を考える。

3	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の表現についての感受 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニコンサートを開き友達の表現した音の工夫や面白さを感じ取る。 	<p>(表)イメージに合う音を探して表現している。</p> <p><発表の様子></p> <p>(工)楽器の音色に気を付け、動物のイメージを感じ取る。</p> <p><ワークシート></p>	<p>適切な楽器の選択</p> <p>音色やリズムの特徴の気付き たくさんのよさの発見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・直接、会話などから感じたことを引き出す。 ・個別に話し、一緒に楽器を選ぶ。
4	<p><課題追究></p> <p>どうぶつを あらわす音をつくらう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近材・楽器を使つての動物の音づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなものや、楽器を使ってイメージする音を作る。 <p>(工)と(表)は関連性があるので1つの活動で同時に見ていくこととします。</p>	<p>(工)見つけた音の響きから、自分の表現したい動物に合わせた音を工夫している。</p> <p><活動の様子></p> <p><ワークシート></p> <p>(表)音の出し方を工夫し、イメージに合った音づくりをしている。</p> <p><活動の様子></p> <p><ワークシート></p>	<p>効果的なものや楽器の選択</p> <p>イメージに合う楽器の音の追究</p> <p>たたき方や、鳴らし方などにこだわった練習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表したい動物、鳴き声などを出させ、イメージを膨らませる。 ・動物に合うものや楽器を一緒に選ぶ。 ・たたき方、鳴らし方をアドバイスする。
5	(本時)				
6	<ul style="list-style-type: none"> ・つくった音の鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・つくった音をみんなで聴き合う。 	<p>(工)イメージに合う音やリズムを感じながら聴く。</p> <p><活動の様子></p> <p><ワークシート></p>	<p>イメージに合う音やリズムの特徴の気付き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気に入った音やリズムを出させ、気付かせる。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・つくった音と「みんなでコンサート」の演奏 	<ul style="list-style-type: none"> ・つくった音を「みんなでコンサート」に入れてオリジナル曲の歌を楽しむ。 	<p>(表)様々な楽器の音色の面白さに気付きながら演奏する。</p> <p><活動の様子></p> <p>(工)オリジナルの曲のよさを感じ取って聴く。</p> <p><活動の様子></p> <p><ワークシート></p>	<p>つくった音色やリズムに合わせた演奏</p> <p>オリジナル曲のよさの気付き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に演奏をする。 ・よかったところなどを具体的に出させる。
8	<p><発展・深化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・CD「子ぞうのこうしん」の鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・CDを聴き、子ぞうらしい音を聴き分ける。 	<p>(鑑)子ぞうらしい音を感じ取って聴く。</p> <p><ワークシート></p>	<p>具体的な子ぞうの特徴の感じ取り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ぞうはどんなイメージか出しやすいように話しかける。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・身体表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・音のイメージに合わせて自由に体を動かし、曲を全身で楽しむ。 	<p>(関)自分で作った音楽を進んで発表しようとしている。</p> <p><活動の様子></p> <p>(表)イメージに合った表現をしている。</p> <p><活動の様子></p>	<p>生き生きとした身体表現</p> <p>表情豊かで体全体での表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に表現し、楽しい活動であることを体験させる。 ・簡単に表現しやすいものを提示する。

(関)・・・音楽への関心・意欲・態度

(表)・・・表現の技能

(工)・・・音楽的な感受や表現の工夫

(鑑)・・・鑑賞の能力

何を評価するかをはっきりさせて、目標を決めます。

9 本時の目標

- (1) 見つけた音の響きから、自分の表現したい動物に合わせた音を工夫している。 (音楽的な感受や表現の工夫)
- (2) 音の出し方を工夫し、イメージに合った音づくりをしている。 (表現の技能)

10 本時の展開

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具等	評価
導入	・めあてを確認させる。	— 斉 — 斉	「みんなでコンサート」を歌う。 本時のめあてを知る。	・楽しい雰囲気や元気を出させる。	・オルガン	
	ならし方をくふうして、動物をあらわす音をつくろう					
展	・例を出して工夫の仕方、ワークシートの書き方を示す。		・ならし方の工夫の仕方や、ワークシートの書き方を知る。		・絵 ・ワークシート	
			<p>楽器の音色からどんなことを感じ(知覚)それによって、どんな動物のイメージがわくかしっかり考えさせます。</p>		・身近材 ・楽器	
開	・音づくりをさせる。	個別	・音づくりをする。			・見つけた音の響きから自分の表現したい動物を表す音を工夫している。 (工) <活動の様子>
	<p>個々の児童にどのような働きかけをすることができるか、なるべく多く考えておきます。</p>	個別	<p>友だちのつくった音を聴く。</p> <p>音づくりをする。</p>	<p>豊かに表現できている例を紹介し、活動の幅を広げる。</p> <p>できにくい児童にはたたき方、鳴らし方をアドバイスする。</p>	<p>A 規準のキーワードも明記しておくとして評価しやすいです。</p>	<p>効果的なものや楽器の選択 イメージに合う楽器の音の追究 音の出し方を工夫し、イメージに合った音づくりをしている。 (表) <活動の様子> たたき方や、鳴らし方などにこだわった練習</p>

ま と め	・本時の振り返りをさせる。	一 斉	・ワークシートに書く。 ・うまく表現できたところがんばったところを発表する。		・ワークシート	
	・次時予告	一 斉	・「音の鑑賞会」をすることを知らせる。			

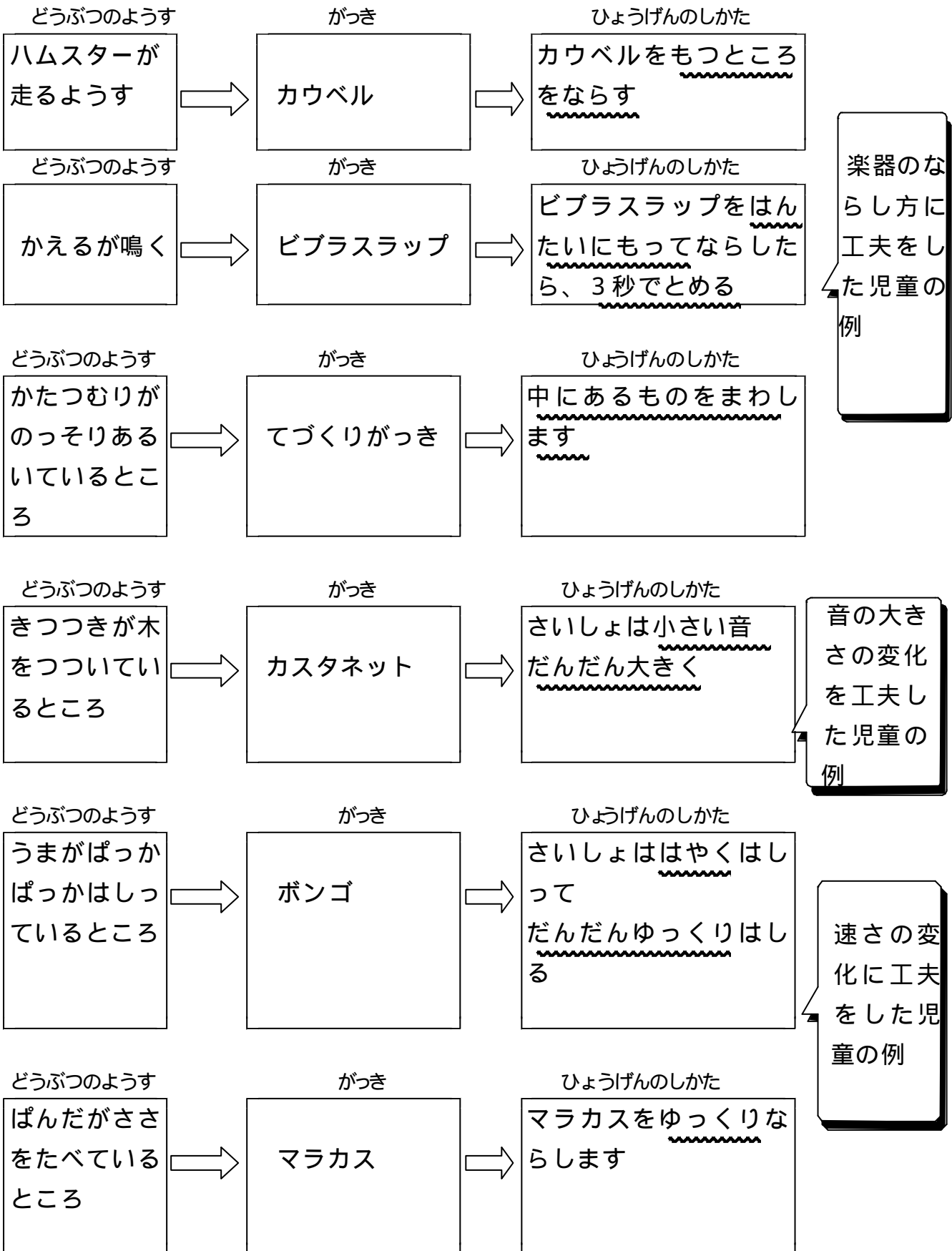
(工)・・・音楽的な感受や表現の工夫

(表)・・・表現の技能

< 児童の工夫例 >

児童のワークシートより

あらわしたい動物のようすに近い音やならしかたをくふうしてみよう



資料編

音楽科学習指導案

小学校

教諭

- 1 対象 第2学年 男子 名 女子 名 合計 名
 2 日時 平成 年 月 日 () 第 校時
 3 場所 音楽室
 4 題材 「音のたんけん」
 5 題材設定の理由

6 児童観

7 題材の目標

- (1) 様々な音を聴き、イメージに合った音を探して表現する活動に進んで取り組んでいる。
 (音楽への関心・意欲・態度)
- (2) 身の回りのいろいろな音の響きに注目し、自分の表現したい動物についての思いやイメージをもつ。
 互いに工夫してつくった音や音楽を聴き合い、そのよさや楽しさを感じ取る。
 (音楽的な感受や表現の工夫)
- (3) 音の出し方を工夫して、自分のイメージに合った音づくりをする。
 (表現の技能)
- (4) 鑑賞曲の特徴ある楽器の音を聴き取っている。
 (鑑賞の能力)

8 題材指導計画 (全9時間)

時間	指導過程と指導内容	学習活動	学習活動における具体的評価規準等		
			(観点) 評価規準 < 評価の方法 >	十分に満足できると判断される状況 キーワード	努力を要する状況 への手立て
1	< 課題把握 > うたにあう音を入れてうたおう ・曲全体の流れの把握と活動の理解 「みんなでコンサート」	・模唱を聴き、曲全体の流れがわかり、活動の見通しをもつ。	(関)模唱を聴き、同じように歌いたいという願いを持ち、楽しく歌唱表現しようとしている。 < 活動の様子 >	自分なりの工夫豊かな表現 積極的な態度	・一緒に歌ったりして励ます。
2	< 課題追究 > どうぶつをあらわす音をつくろう ・動物のイメージにふさわしい楽器選びと音の工夫	・象、子りすに合う楽器を選んで、鳴らしたり音の出し方を工夫する。	(工)音や響きの違いを感じ取って、イメージに合う音の出し方を工夫している。 < 活動の様子 > < ワークシート >	メージに合う音の追求 効果的な楽器の選択	・本人の傍らに行き、共に活動をする。
3	・友達の表現についての感受	・ミニコンサートを開き友達の表現した音の工夫や面白さを感じ取る。	(表)イメージに合う音を探して表現している。 < 発表の様子 > (工)楽器の音色に気を付け、動物のイメージを感じ取る。 < ワークシート >	適切な楽器の選択 音色やリズムの特徴の気付き たくさんのよさの発見	・直接、会話などから感じたことを引き出す。 ・個別に話し、一緒に楽器を選ぶ。

4	<p><課題追究></p> <p>どうぶつを あらわす音をつくろう</p> <p>・身近材・楽器を使っ ての動物の音づくり</p>	<p>・いろいろなものや、楽 器を使ってイメージす る音をつくる。</p>	<p>(工)見つけた音の響 きから、自分の表現 したい動物に合わせ た音を工夫してい る。</p> <p><活動の様子> <ワークシート></p> <p>(表)音の出し方を 工夫し、イメージに 合った音作りをして いる。</p> <p><活動の様子> <ワークシート></p>	<p>効果的なものや 楽器の選択 イメージに合う 楽器の音の追究</p> <p>たたき方や、鳴 らし方などにこ だわった練習</p>	<p>・表したい動物、 鳴き声などを出 させ、イメージ を膨らませる。</p> <p>・動物に合うもの や楽器を一緒に 選ぶ。</p> <p>・たたき方、鳴ら し方をアドバイ スする。</p>
5 (本 時)					
6	<p>・つくった音の鑑賞</p>	<p>・つくった音をみんな で聴き合う。</p>	<p>(工)イメージに合 う音やリズムを感じ ながら聴く。</p> <p><活動の様子> <ワークシート></p>	<p>イメージに合う 音やリズムの特 徴の気付き</p>	<p>・自分の気に入 った音やリズムを 出させ、気付か せる。</p>
7	<p>・つくった音と「みん なでコンサート」の 演奏</p>	<p>・つくった音を「みんな でコンサート」に入れ てオリジナル曲の歌を 楽しむ。</p>	<p>(表)様々な楽器の 音色の面白さに気付 きながら演奏する。</p> <p><活動の様子></p> <p>(工)オリジナルの 曲のよさを感じ取っ て聴く。</p> <p><活動の様子> <ワークシート></p>	<p>作った音色やリ ズムに合わせた 演奏</p> <p>オリジナル曲の よさの気付き</p>	<p>・一緒に演奏をす る。</p> <p>・よかったところ などを具体的に 出させる。</p>
8	<p><発展・深化></p> <p>・CD「子ぞうのこう しん」の鑑賞</p>	<p>・CDを聴き、子ぞうら しい音を聴き分ける。</p>	<p>(鑑)子ぞうらしい 音を感じ取って聴 く。</p> <p><ワークシート></p>	<p>具体的な子ぞう の特徴の感じ取 り</p>	<p>・子ぞうはどんな イメージか出し やすいように話 しかける。</p>
9	<p>・身体表現</p>	<p>・音のイメージに合わせ て自由に体を動かし、 曲を全身で楽しむ。</p>	<p>(関)自分で作った 音楽を進んで発表し ようとしている。</p> <p><活動の様子></p> <p>(表)イメージに合 った表現をしてい る。</p> <p><活動の様子></p>	<p>生き生きとした 身体表現</p> <p>表情豊かで体全 体での表現</p>	<p>・一緒に表現し、 楽しい活動であ ることを体験さ せる。</p> <p>・簡単に表現しや すいものを提示 する。</p>

(関)・・・音楽への関心・意欲・態度

(表)・・・表現の技能

(工)・・・音楽的な感受や表現の工夫

(鑑)・・・鑑賞の能力

9 本時の目標

(1) 見つけた音の響きから、自分の表現したい動物に合わせた音を工夫している。

(音楽的な感受や表現の工夫)

(2) 音の出し方を工夫し、イメージに合った音づくりをしている。

(表現の技能)

10 本時の展開

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具等	評価
導入	・めあてを確認させる。	一斉	「みんなでコンサート」を歌う。	・楽しい雰囲気や元気を出させる。	・オルガン	
		一斉	本時のめあてを知る。			
ならし方をくふうして、動物をあらわす音をつくろう						
展開	・例を出して工夫の仕方、ワークシートの書き方を示す。	個別	・ならし方の工夫の仕方や、ワークシートの書き方を知る。		・絵 ・ワークシート	・見つけた音の響きから自分の表現したい動物を表す音を工夫している。
	・音づくりをさせる。		・音づくりをする。			
展開	・児童のつくった音をいくつか紹介する。	一斉	・友だちのつくった音を聴く。	・豊かに表現できている例を紹介し、活動の幅を広げる。	・身近材 ・楽器	(工) <活動の様子> <ワークシート> 効果的なものや楽器の選択 イメージに合う楽器の音の追究
	・音づくりをさせる。	個別	・音づくりをする。			
まとめ	・本時の振り返りをさせる。	一斉	・ワークシートに書く。		・ワークシート	・音の出し方を工夫し、イメージに合った音づくりをしている。 (表) <活動の様子> たたき方や、鳴らし方などにこだわった練習
	・次時予告	一斉	・「音の鑑賞会」をすることを知らせる。			

(工)・・・音楽的な感受や表現の工夫

(表)・・・表現の技能

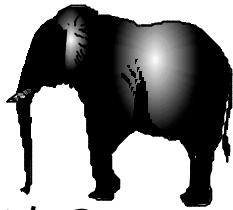
どうぶつを あらわす音を つくろう (1)

2年 なまえ()

どんなようすかな? おもいうかぶことを いっぱいだしてみよう

ぞう

子りす



どんな音かな?

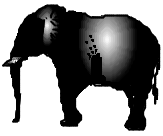
いろいろながつきを ならしてみよう

がっきのなまえ	かんじたことばで ひょうげんしてみよう

どうぶつを あらわす音を つくろう (2)

2年 なまえ()

ぞう、子りすにあうがつきをえらんで、ならしてみよう

	えらんだがつき	ひょうげんしようとしたこと
ぞう 		
子りす 子りすの絵		

できたかな？

ぞう 子りすをあらわす音づくりができましたか？

ともだちのはつぷょうをきいて、ぞう 子りすがよくあらわれていたところをおしえてあげよう！

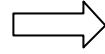
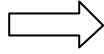
・()さんの()をあらわす音は()というところがよかったです。

あらわしたい動物のようすに近い音やならしかたをくふう してみよう

どうぶつのようす

がっき

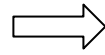
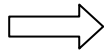
ひょうげんのしかた



どうぶつのようす

がっき

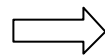
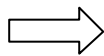
ひょうげんのしかた



どうぶつのようす

がっき

ひょうげんのしかた



できたかな？

あらわしたいどうぶつのようすがうまくひょうげんできましたか？

あらわしたかったどうぶつ・・・

音づくりでどうぶつのどんなところをひょうげんしたかったのか・・・

うまくひょうげんできましたか？

音楽科の評価の観点及び趣旨

	音楽への関心 ・意欲・態度	音楽的な感受 や表現の工夫	表現の技能	鑑賞の能力
	音楽に親しみ、音楽を進んで表現し、鑑賞しようとする。	音楽のよさや美しさを感じ取り、それらを音楽活動の中で創意工夫し、生かしている。	音楽を表現するための基礎的な技能を身に付けている。	音楽を楽しく聴取、鑑賞し、そのよさや美しさを味わう。
第1学年・第2学年	音楽に対する興味・関心をもち、進んで音楽活動を楽しもうとする。	楽曲の気分や音楽を特徴づけている要素を感じ取り、それらを生かした表現や鑑賞の工夫をしている。	範唱や範奏を聴いて演奏したり、リズム譜に親しんだりするとともに、自分の歌声や発音に気を付けて歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。	音楽を特徴付けている要素に気を付けながら、楽曲の気分を感じ取って聴く。
第3学年・第4学年	進んで音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高めるとともに、生活を明るく潤いのあるものにしようとする。	曲想や音楽を特徴付けている要素を感じ取り、それらを生かした表現や鑑賞の仕方を工夫している。	音楽を聞いたり楽譜を見たりして演奏するとともに、鼓弓及び発音の仕方に気を付けて自然で無理のない声で歌ったり、音色に気を付けて演奏したり、音楽をつくったりしている。	音楽を特徴付けている要素や、楽曲の仕組みに気を付けながら、曲想の変化を感じ取って聴く。
第5学年・第6学年	創造的に音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高めるとともに、生活を明るく潤いのあるものにしようとする。	音楽のよさや美しさを感じ取るとともに、楽曲全体の構成を理解したり、自由な発想を生かしたりして、表現や鑑賞の仕方を工夫している。	音楽を聴いたり楽譜を見たりして演奏するとともに、豊かな響きのある自然で無理のない声で歌ったり、音色の特徴を生かして楽曲を演奏したり、音楽をつくったりしている。	楽曲の構成に気を付けながら、曲想を全体的に味わって聴く。

参考文献

- ・小学校学習指導要領解説 文部省
- ・初等教育資料（平成11年5月） 文部省
- ・小学校・中学校新しい音楽科の指導と評価 教育芸術社